

お知らせ

当財団参与 藤城俊夫氏の学会賞受賞について



平成21年11月13日、藤城俊夫氏は、日本機械学会動力エネルギーシステム部門から、2009年度部門賞（功績賞）を受賞されました。

藤城氏は、東京大学及び同大学院をご卒業の後、日本原子力研究所（当時。以下、原研とする。）において、原子炉施設の安全性研究に携わり、原子炉安全性研究炉（NSRR）の建設、同炉を用いた燃料挙動実験研究など、原子炉安全性研究の中心的及び指導的役割を果たして来られました。原研における原子炉安全工学部長、大洗研究所長等の重職を担当された後、平成11年7月から当財団の専務理事に就任、原子力分野における情報科学技術の高度化研究、利用に係る技術開発等、当財団の活動を統率され、現在も参与としてご指導下さっています。

藤城氏は、これらと並行して、OECD/NEA原子力施設安全性委員会、同上級専門委員会等の委員として、原子力安全研究の推進、研究成果の活用等の分野で、国際的に活躍され、これらの業績により1992年研究功績者科学技術長官賞を受賞されました。また、国内での活躍に対しても、原子力安全委員会専門委員としての安全審査指針・基準類の策定、改訂等への貢献及び通商産業省（当時）原子力発電技術顧問としての安全運転管理、安全審査等への助言を通じた原子力施設の安全確保への貢献を賞され、1997年原子力安全功労者科学技術長官賞を受賞されました。さらに、原子力防災の分野においても、指針等の整備、防災訓練支援、評価等に大いに貢献され、2004年防災功労者防災担当大臣表彰及び2006年防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞されています。また、日本機械学会においても、各種分科会、委員会等の委員及び委員長として大きな功績を残され、この度の受賞に至ったものです。

この度の受賞に加えて、総理大臣表彰と3度の大臣表彰の栄誉を受けられた藤城俊夫氏から、直接のご指導を受けることができることは当財団の役員、職員にとって大きな喜びであり、同氏が当財団の参与であることは大きな誇りであります。役職員一同、この度の受賞をお慶び申し上げますとともに、皆様にご報告申し上げます。